

'12.3

毎月1回20日発行 定価 1部60円  
発行人 兵庫県商工会連合会  
代表者 木南 岩男  
発行住所 神戸市中央区花隈町6番19号  
☎078(371)1261㈹ 〒650-0013  
http://www.shokoren.or.jp/  
編集人 安 平 一  
印刷所 有限公司 浜田デザイン写植  
会員の購読料は会費に含んでおります

第655号

# 兵庫県 商工連会報

(題字は井戸知事)

Hyogo Prefectural Federation of Societies of Commerce and Industry

平成23年度 スローガン

## 商工会は行きます 聞きます 提案します



▲ 株式会社藤原組の皆さん（前列左から二人目が藤原富三郎社長、三人目が藤原晃一郎専務）

### Contents

#### ■県連会Letter 2~3頁

- ・第2回コーディネーター養成研修
- ・海外展開セミナー
- ・県青連 労働環境対策委員会
- ・県青連 経営革新研修会
- ・環境問題アンケート調査結果報告
- ・同友会 第3回研修会・新年交流会
- ・県女性連 正副会長・常任理事会

#### ■あなたのまちの元気な企業(神河町)4頁

#### ■商工会Letter 5~6頁

- ・くりたん ..... (三田市)
- ・エコキャップ回収 ..... (五色町商工会青年部)
- ・いのしし祭り開催 ..... (篠山市)
- ・中国広東省観光兵庫県観光プロモーション(三田市)
- ・太子町マーケット開催 ..... (太子町)
- ・商談会開催
- ・コラム「ひょうご支援の扉」

明治後期に創業、現社長（藤原富三郎氏）が三代目となる㈱藤原組は、道路、河川、砂防関係の土木事業を中心に成長。仕上がりの美観にこだわり、顧客の信用を得ることをモットーに仕事をしてきた。  
さらに、専務の藤原晃一郎氏は、これまでの公共工事に加え、環境に優しく、時代の流れに変化対応できる景観舗装の設計・施工・メンテナンスをテーマに平成二十一年に経営革新計画の承認を受け、新事業にも積極的に取り組み、徐々にではあるが、好調に売上げを伸ばしている。

㈱藤原組は、これまで二度の経営革新計画の承認を受けており、常に新しいことに挑戦するその姿勢は、地域のリーダー的な存在となっている。  
(関連記事 四頁)

新分野への挑戦

株式会社 藤原組

(神河町)

## 海外展開セミナー開催



▲県立大 佐竹教授が  
円高・デフレ・TPP対策を指南

県連合会は、一月二十七日、神戸市・ホテル北野プラザ六甲荘で「中小企業の海外展開セミナー」を開催し、約六十人が参加した。講演一では、兵庫県立大学大学院教授の佐竹隆幸氏が「TPPの概略および中小企業に与える影響について」と題し、中小企業の円高やデフレ対策、TPPへの取組みなどについて説明した。講演二では、中小企業戦略コンサルタントの五十嵐勉氏が「成功するアジア進出のツボ」と題し、主にベ

午前中は、「コードネイターサポート能力の高度化を」と上山CA副主任チーフアドバイザーの上山修一氏が講演。同アドバイザーの平林潤氏からは、仮想事例によるケーススタディを実施した。

トナム地域への中小企業の進出について説明した。

講演三では、中小機構近畿支部・海外販路開拓支援マネージャーの折田正明氏が「中小機構の国際化支援サービスと中国を中心とした事例紹介」と題し、中小企業による中国ビジネスにおける成功例及び失敗例など盛りだくさんの実例を交えて説明した。

参加者からのアンケートでは、海外展開についての細かな点をもつと知りたいなどの意見があり、県内中小企業者の海外展開に意識の高さを感じた。

県連合会は、一月二十四日、神戸市・川崎重工保健会館において第二回コーディネーター養成研修会を二千四人の参加で開催した。

本研修会は、今年度第二回コーディネーター養成研修会を受講した職員を対象に、経営支援サポート能力の高度化を目的に開催。



▲「支援サポート能力の高度化を」と上山CA副主任チーフアドバイザーの上山修一氏が講演。同アドバイザーの平林潤氏からは、仮想事例によるケーススタディを実施した。

午前中は、「コードネイターサポート能力の高度化を」と上山CA副主任チーフアドバイザーの上山修一氏が講演。同アドバイザーの平林潤氏からは、仮想事例によるケーススタディを実施した。

午後からは、参加者ごとの支援事例を参考に、経営支援のスタンスについてグループ討議を行った。各班とも現状の分析から社長の思い、課題抽出とその解決策、企業の成長過程をイメージした支援計画等が「気づき」を生かしながらまとめてあつた。

今回の研修会においては、支援企業の本質的な課題は何なのか、支援する過程を知識・経験・関連情報から有機的に組み合わせ、かつ、支援者との意思の一致をこころがけながらモチベーションを保つことこそが「コードネイターサポート能力」であることを体感した。

委員会では、全国どこでも起り得る災害時に地域の事業者、商工会の青年部員としてどのように行動し、いち早く事業を立ち直らせ、いかに地域を復興することができるかを、若手経営者である青年部が考へている。

できるだけ多くの事業所が、従業員も含め、災害時の行動を意識するためには実施しているもので、今回が四回目となる。

今回は、災害時に緊急連絡を行うツールとして有効的な「フェイスブック」について、三田市商工会青年部の平瀬部長から説明があった。

また、今後、県下三カ所（養父市、三田市、福崎町）において、防災啓発セミナーとして、委員会で検討した事業継続計画のチェックシートについての説明や、青年部OBの佐用町・千種氏から同氏が係わる東日本の復興支援や災害時の対応についての講演を行う予定である。

## 支援者のモチベーションを保つ!! ～第二回コーディネーター養成研修会～

### 県青連 労働環境対策委員会 を実施

午後からは、参加者ごとの支援事例を参考に、経営支援のスタンスについてグループ討議を行った。各班とも現状の分析から社長の思い、課題抽出とその解決策、企業の成長過程をイメージした支援計画等が「気づき」を生かしながらまとめてあつた。

県商工会青年部連合会（北村広樹会長）は、一月二十三日、労働環境対策委員会を実施し、委員等二十五人が出席した。

委員会では、全国どこでも起り得る災害時に地域の事業者、商工会の青年部員としてどのように行動し、いち早く事業を立ち直らせ、いかに地域を復興することができるかを、若手経営者である青年部が考へている。

できるだけ多くの事業所が、従業員も含め、災害時の行動を意識するためには実施しているもので、今回が四回目となる。

今回は、災害時に緊急連絡を行うツールとして有効的な「フェイスブック」について、三田市商工会青年部の平瀬部長から説明があった。

また、今後、県下三カ所（養父市、三田市、福崎町）において、防災啓発セミナーとして、委員会で検討した事業継続計画のチェックシートについての説明や、青年部OBの佐用町・千種氏から同氏が係わる東日本の復興支援や災害時の対応についての講演を行う予定である。

### 一中小企業と共に50年一

商工会の共済事業として会員の福利厚生をお手伝いする

# 県共済

兵庫県火災共済協同組合  
兵庫県共済協同組合

神戸市中央区中山手通7丁目28番33号(県立産業会館内)

078-361-8080(代) Fax 078-371-6757

ホームページ [www.Ken-Kyosai.or.jp](http://www.Ken-Kyosai.or.jp)

### 3月のこよみ

- 1日(木)、2日(金) 県青連労働環境対策セミナー
- 6日(火) 人事調整委員会・人事管理委員会
- 16日(金) 正副会長・常任理事会
- 21日(水) 商工会税務研修会
- 23日(金) 支援事例報告研究会

### 4月のこよみ

- 6日(金) 近畿府県女性部役員会
- 10日(火) 女性部監事会・正副会長会・理事会
- 25日(火) 女性部総会・第1回幹部講習会





▲施工状況



▲展示場

競合の少ない床に特化した市  
工コで個性的な  
景観舗装事業

藤原氏は、専門家の支援を受  
けながら必死に取り組んだ結果、  
わずか二ヶ月で承認を受けるこ  
とに成功した。しかし、激変し  
ている土木業界において、事業  
計画が必ずしも成功するとは限  
らないと感じた藤原氏は、事業  
計画を再検討、約二年後の平成  
二十一年九月、現在の主軸商品  
である景観舗装事業で二度目の  
承認を受けることに成功した。  
その後、平成二十二年六月には、  
中小企業支援ネットひょう  
ごの成長期待企業として認定さ  
れた。現在は、さらなるステップ  
アップとして、中小企業基盤整備  
機構近畿支部の販路開拓支援コー  
トマネージャーとともに、新た  
な販路開拓に取り組んでいる。

藤原氏は、専門家の支援を受  
けながら必死に取り組んだ結果、  
わずか二ヶ月で承認を受けるこ  
とに成功した。しかし、激変し  
ている土木業界において、事業  
計画が必ずしも成功するとは限  
らないと感じた藤原氏は、事業  
計画を再検討、約二年後の平成  
二十一年九月、現在の主軸商品  
である景観舗装事業で二度目の  
承認を受けることに成功した。  
その後、平成二十二年六月には、  
中小企業支援ネットひょう  
ごの成長期待企業として認定さ  
れた。現在は、さらなるステップ  
アップとして、中小企業基盤整備  
機構近畿支部の販路開拓支援コー  
トマネージャーとともに、新た  
な販路開拓に取り組んでいる。

既存のものを取り壊す必要も  
ないため、エコな商材である。  
また、デザイン・カラーも豊富  
であることから、オリジナリティ  
を表現することができ、最近では  
社名のロゴを舗装してほしい  
と受注が増えている。

## 青年部に還元したい

「二十一歳の時に商工会青年部  
に入部していなければ、今の自  
分はない」と藤原氏は語る。「夏  
祭りなどの地域のイベントや県  
での活動を通じて出会うことが  
できた仲間やそれらを通じてで  
きた“人と人とのつながり”は、

### 【企業概要】

企業名／株式会社 藤原組  
代表取締役社長／藤原 富三郎  
専務取締役／藤原 晃一郎  
従業員／4名  
住所／神崎郡神河町鍛冶315番地  
TEL／0790-34-0170  
FAX／0790-34-1321  
URL／<http://www.gogo-fcd.com/index.html>

## 経営革新二回の承認

制限付一般競争入札の導入によ  
つて、受注が非常に困難にな  
り、土木業界で、倒産、自主廃  
業の企業が増えているなか、専  
務の藤原晃一郎氏は、平成十七  
年以降の公共事業の急激な減少  
をきっかけに、何かに着手しな  
いと、という思いを持ち始めて  
いた。そのような時、青年部を

卒業後に入会した商工青年同友  
会の研修会に参加し、一回目の  
経営革新計画承認に取り組むこ  
とを決意した。



▲before  
景観舗装  
◀after

## 株式会社 藤原組 (神河町)

あなたのまちの元気な企業

藤原氏は、景観舗装事業を開  
する傍ら、新商品開発に取り  
組んでいる。その代表として、  
ソーラーLEDとブリキ製バケ  
ツを組み合わせた「ECO BAK  
E LIGHT」がある。



## ECO BAKE LIGHT

藤原氏は、景観舗装事業を開  
する傍ら、新商品開発に取り  
組んでいる。その代表として、  
ソーラーLEDとブリキ製バケ  
ツを組み合わせた「ECO BAK  
E LIGHT」がある。

直接金銭にならないが、最終的  
にビジネスに大変役立っている。  
また、地域が元気になるには、  
メンテナンスフリーの究極のE  
COで地球環境に優しい商品と  
なっている。プリズムガラスの  
特性を生かした光は、ほんのりと  
光り続け、レトロ感を醸し出す。  
昼間太陽光で充電して、暗くな  
るとセンサーが反応し、自動点  
灯する仕組み。約五時間の直射  
日光で八時間以上情緒ある光を  
堪能できる。すべての部品が「M  
ade in Japan」と品質にもこだわっている。玄関や  
庭店舗のオブジェとして、また  
贈り物としても好評を得ている。

「地域を元気にするには、兵庫  
県下の青年部員・同友会の方々  
が覚悟を決め、ビジネスを成長  
させて行くことが必要不可欠だ。」  
と熱く語った。

五色町商工会青年部（鎌田泰治部長）は、平成二十年十月から「エコキヤップ運動」に取り組んでいる。この度、地道な活動が実を結び、ワクチン千人分（累計個数 約九十三万個）を達成した。

同青年部では、環境・資源・リサイクル問題の意識を高めるとともに、命の大切さと助け合いの心を広めるといった社会的意義の高い活動であると考え、事業所や学校などに呼びかけ、この事業を推進してきた。

### エコキヤップ運動

## ワクチン費用千人分達成！

—五色町商工会青年部—

この運動は、NPO法人エコキヤップ推進協会（横浜市）が提唱して、同協会に登録しているリサイクル業者に、キヤップを売った代金でワクチンを寄付するもので、キヤップ約八百個でボリオワクチン一人分になる。ひとつの目標としていた、千人分のワクチンの達成には地元の多くの団体や個人の方々の協力があればこそ。感謝の気持ちを忘れることなく、今後も「五



▲800個でボリオワクチン1人分



三田市商工会（松原正武会長）は、十一月五・六日、JAバスカル館前で開催された第三十七回さんだ農業まつりに参加した。同商工会では、「三田栗」「くりたん」のブランド化を目指し、当日は地域ブランド創出事業の一環として「さんだの栗も

う間に▲2,000個の栗もちがアップ」という質問もあり好評を得た。同まつりは地産地消をコンセプトとした出店が基本であり、地元食材にこだわって「さんだの栗も

かかわらず、用意していた二千個の栗もちはすべて配布。試食した方からは「市販されていますか」という質問もあり好評を得た。

## 「いのしき」と共に 地域活性へ猪突猛進

—篠山市商工会—

十八日、篠山市商工会（溝畑敏樹会長）は、一月二十九回丹波篠山冬の味祭「いのしき祭」を開催した。

祭は「いのしき」の魅力をPRし、いのしきの町として活性化を図るために始めたもの。今回『猪突猛神』様と命名した、丹波焼の「いのしき陶像」にやかり、商工会も猪突猛進の精神で、豊かな地域実現に向けて突っ走っていきたい。



▲「猪突猛神」様に地域活性祈願

## 法務局からのお知らせ

- インターネットを利用してオンラインによる登記事項証明書等のご請求をされる場合  
希望する登記所の窓口でお受け取りいただけます。
- 登記事項証明書等発行請求機の利用について  
神戸地方法務局本局、伊丹支局、尼崎支局、明石支局に登記事項証明書等発行請求機を設置しております。  
請求書の作成が不要になるなど便利になっております。  
詳しくは、電話・窓口等でお問い合わせください。

神戸地方法務局（☎078-392-1821）

## 第二回太子町マーケット(産学連携事業) 新春講演会と合同会社説明会も開催

—太子町商工会—

太子町商工会は、一月十四日、太子町立文化会館「あすかホール」において「第二回太子町マーケット」と「新春講演会」「合同

24社が売り込む  
ニッポンいいもの再発見!  
盛況!! 初の商談会  
兵庫県地区商談会を開催



県連合会は、一月十九日、ホテルモントレ神戸において「ニッポンいいもの再発見! 兵庫地区商談会」を全国商工会連合会と共同開催した。県下から食品製造小売業など二十四社が参加し、高島屋やファミマドットコムなど、十一社のバイヤーに自慢の商品を売り込んだ。

バイヤーは、試飲・試食や、パッケージデザイン、商品コンセプト、物流等についてのヒアリングを行い、買い付けるか否かを判断した。

中には、短時間で商談が成立したものもあり、事業者からは「今後の商品開発に向け、バイヤーの意見は大変参考になった。バイヤーによつて意見の違いがあり、良い勉強になった。次回もぜひ参加したい」という声が数多く聞かれた。

この事業では、バイヤーによる「商品評価シート」を事業者へフィードバックすることで、自社商品の強み・弱みを把握してもらい、今後商品開発に役立ててもらうとともに、今後の販路拡大につなげてほしいと願っている。



新春講演会  
では、西川ヘレン氏が「大  
家族—支え

求職者の姿が見受けられた。  
併せて就職セミナー「今、求められる人材」も開催され、参加者は熱心に受講していた。



会社説明会を開催した。

今年で二回目となる太子町マーケットは、様々な業種の会員事業所が一堂に会し、太子町内外の消費者への認知度アップを目的としたものであり、兵庫県立大学との産学連携事業として企画され、大学生は事前に参加事業所を訪問し、チラシ作成を手掛けるとともに、当日の来場者へのアンケート調査等ではニーズや満足度把握に貢献した。

愛・見守り愛・励まし愛」と題して講演、自らの半生を熱く、時にはユーモアを交えた語り口に、超満員の来場者は感動した。

会社説明会では多くの求職者が訪れ、参加企業の各ブースでは熱心に説明を受ける。

合同会社説明会では、

説明会では、

多くの求職者が訪れ、参加企業の各ブースでは熱心に説明を受ける。

最高の信頼を  
めざして。

三井住友銀行



コラム

### ひょうご支援の扉

#### 追いつめられる“ふるさと”の再生

経営支援課長 中村嘉雄

過疎地では人が住めなくなる地域が生まれつつある。まちに人が住み続けるには、公共サービス、病院等の充実が必要であり、そのためには自治体への安定した税収が必要である。

地域には自然や歴史遺産、まちの景観、伝行事など、さまざまな地域資源が蓄積され、それぞれの特性を作りあげてきた。それらの個性を守りながら、住民が住み続けたいと思う魅力ある地域を作り、雇用を生み出し、地域産業を活性化させていている。

それが、足元に眠つてい

いま、問題となつている買い物難民の対策を構築するには、日本の古き良き“ふるさと”を再生することが必要である。そのためには、日本社会のあり方そのものを見直す時期にあると言える。忘れられかけている日本人らしさ（心）を取り戻すこ

とが必要なのである。

高校野球で地元から甲子園に

出場したら、地元の商店街が盛りあげている光景や、かつては頑固親父の店主が悪さをする子供たちをしかり、恐れられる地域の指導者役になつていた姿を思い出してもらいたい。このように地元の商店などは、従業員や企業活動そのものを通じて、地域社会と深い関わりを持つており、地域社会は企業の存立基盤である。

地域社会を構成する農協・漁協・観光協会など関係団体を地域総合経済団体である商工会がコーディネート役として有機的に連携させ、行政や住民と共に地域活性化に取り組むことが重

出場したら、地元の商店街が盛りあげている光景や、かつては頑固親父の店主が悪さをする子供たちをしかり、恐れられる地域の指導者役になつていた姿を思い出してもらいたい。このように地元の商店などは、従業員や企業活動そのものを通じて、地域社会と深い関わりを持つており、地域社会は企業の存立基盤である。